

U.S. Indicators

発表日:2024年2月7日(水)

米国 24年初の景気堅調を示唆(1月ISM非製造業)

～非製造業部門は市場想定を上回るペースで拡大～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

24年1月のISM非製造業景気指数(総合、季節調整値)は、53.4(前月50.5、改定前50.6)と前月比2.9%ポイント上昇、非製造業部門が市場予想の52.0(筆者予想52.7)を上回った。非製造業部門の拡大ペース加速が示されたものの、悪天候などによる入荷遅延の上昇によって押し上げられた部分もあり、若干割り引いてみる必要がある。また、拡大した業種数は、全18業種中10業種(前月9業種)にとどまっており、非製造業部門は緩やかなペースで拡大していると判断される。

回答者の大多数は、事業の安定を報告した。企業は金融緩和の潜在的な影響によって、経済に楽観的なものの、インフレ、インフレに伴うコスト増加圧力、地政学的な紛争を背景に、慎重になっていると指摘された。

非製造業総合指数の構成項目では、活動指数が55.8(前月55.8、前月比0.0%ポイント)と横ばいになった一方、雇用が50.5(前月43.8、前月比+6.7%ポイント)、入荷遅延が52.4(前月49.5、前月比+2.9%ポイント)、新規受注が55.0(前月52.8、前月比+2.2%ポイント)と上昇した。活動指数が事業活動の堅調さを映じて、比較的高い水準を維持したほか、新規受注が高い水準に上昇しており、非製造業部門の拡大継続を示唆している。

総合指数への寄与度では、活動指数はゼロとなったが、雇用が前月比+1.68%ポイント、入荷遅延が前月比+0.73%ポイント、新規受注が前月比+0.55%ポイントの押し上げ寄与となった。ただし、入荷遅延は、悪天候、地政学リスクにより納入スピードが遅くなった影響で上昇幅が大きくなっており、一時的な動きと考えられる。

企業の回答をみると、インフレ関係について、インフレ、紅海でのテロによるスエズ運河の輸送への影響、パナマ運河の問題は、世界の物資の輸送コストとスケジュールの両方に影響を与えていると報告された。また、業種別の動向では、急成長しているセクターがある一方、太陽光発電、風力発電、造船、電気自動車などの一部のセクターが減速しているほか、下落傾向にあるセクターは、鉄鋼、製紙、通信機器など。しかしながら、全体として経済は良好な状態にあり、差し迫った景気後退の脅威はないとの見方が報告された。

ISM非製造業景気指数

	総合指数								
	活動指数	新規受注	雇用	入荷遅延	受注残高	仕入価格	新規輸出受注	在庫変動	
23/06	53.6	59.2	55.5	53.1	47.6	43.9	54.1	61.5	55.9
23/07	52.8	57.1	55.0	50.7	48.1	52.1	56.8	61.1	50.4
23/08	54.1	57.3	57.5	54.7	48.5	41.8	58.9	62.1	57.7
23/09	53.4	58.8	51.8	53.4	50.4	48.6	58.9	63.7	54.2
23/10	51.9	54.5	55.1	50.4	47.5	50.9	58.0	48.8	49.5
23/11	52.5	54.9	54.8	50.6	49.6	49.1	57.6	53.6	55.4
23/12	50.5	55.8	52.8	43.8	49.5	49.4	56.7	50.4	49.6
24/01	53.4	55.8	55.0	50.5	52.4	51.4	64.0	56.1	49.1

サブ項目では、新規輸出受注が 56.1（前月 50.4、前月比+5.7%ポイント）と上昇し、サービス輸出の増加ペース加速を示した。一方、輸入は 59.9（前月 49.3、前月比+10.6%ポイント）と大幅上昇し、サービス輸入の大幅拡大を示した。

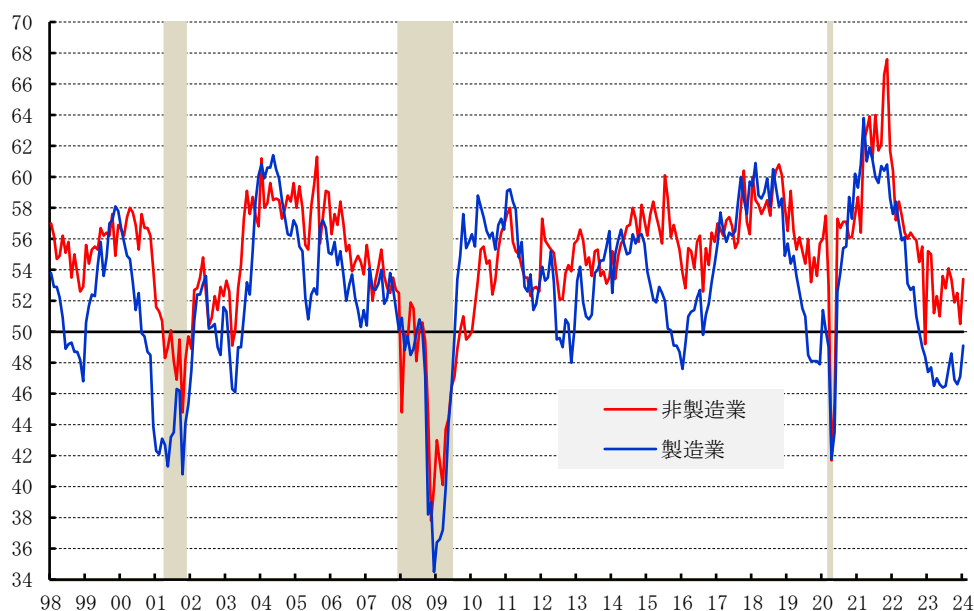
インフレ環境では、仕入価格指数が 64.0（前月 56.7）と急上昇し、インフレ圧力の強まりを示した。労働コスト等の継続的な上昇のほか、電気部品、牛肉、食品・ケータリング、鉄鋼製品、ソフトウェアサポート等の上昇によって押し上げられた。また、供給不足の分野として、変圧器、自動車、建設業者、電気部品等が挙げられた。

1月に拡大した業種数は、18業種中10業種と前月の9業種から増加した。拡大した業種は、強い順に医療・社会支援、農林水産業、専門・科学・技術サービス、公的部門、公益、宿泊・飲食サービス、建設業、その他サービス、教育サービス、企業向けサービス（下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す）。一方、縮小した業種は、情報産業、小売業、不動産・賃貸・リース業、鉱業、芸術・娯楽・レクリエーション、卸売業、金融・保険の7業種（前月9業種）に減少した。運輸・倉庫は変わらずとなった。

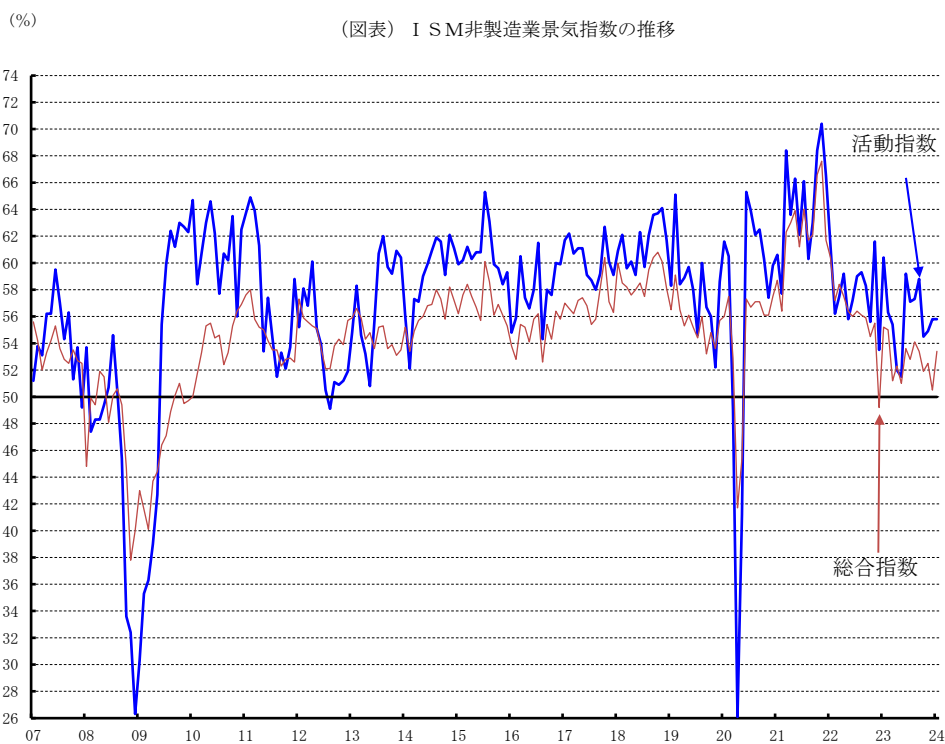
米国経済全体の景気動向を示す「ISM総合景気指数（非製造業景気指数と製造業景気指数の合成）」は、1月に53.0（前月50.2）と上昇し、景気拡大ペースの加速を示した。

四半期では、1月の製造業は、49.1と10-12月期の46.9を上回ったほか、非製造業が53.4と10-12月期の51.6を上回り、加速した。この結果、1月のISM総合景気指数は、53.0と10-12月期の51.2から加速、1-3月期の景気は堅調さを維持していることを示している。

ISM景気指数の推移



（出所）ISM（注）シャド一部は景気後退期



(出所) ISMデータより作成

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

